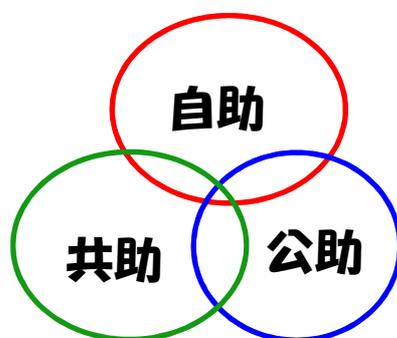


安城市校區別地震防災カルテ

学区：志貴小学校区



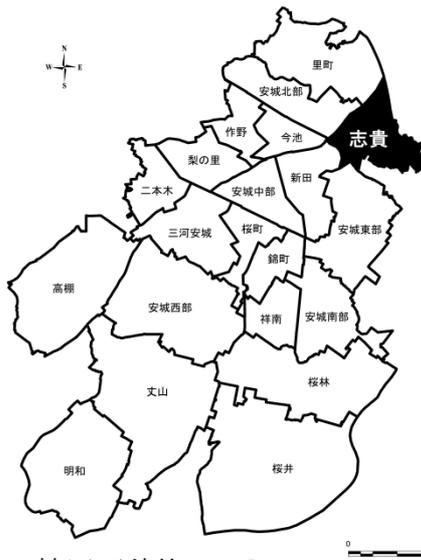
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

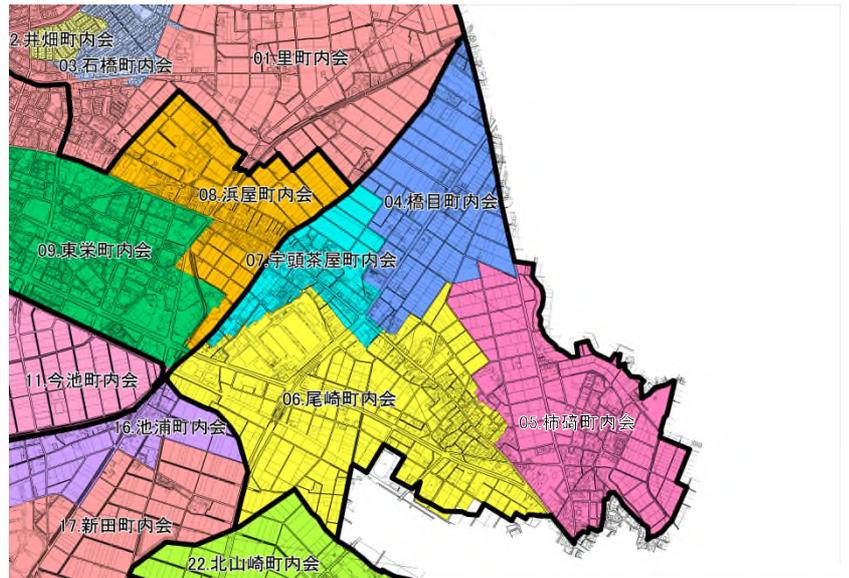
目 次

志貴小学校区のおかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	8
8. 防災上の課題	8
9. 防災関連施設分布図	9

1. 校区の位置図



校区面積約 2.81km²
(安城市全体の 3.3%)



町内会区分図

2. 校区の構成

橋目町、柿碓町、宇頭茶屋町、尾崎町

3. 校区の概要

【位置】 志貴小学校区は、市の東部に位置する。

校区は、北東部が豊田市、南東部が岡崎市との市境となっている。

【土地】 校区南部に丸田川が流れている。

標高は比較的高く平地が広がっている。

【土地利用】 北部は主に田畑が広がり、住宅は南部に集まっている。

国道1号沿いに商業用地や工業用地がある。

【交通】 国道1号が横断し、南西方向に通る県道豊田安城線（76号線）と交差している。

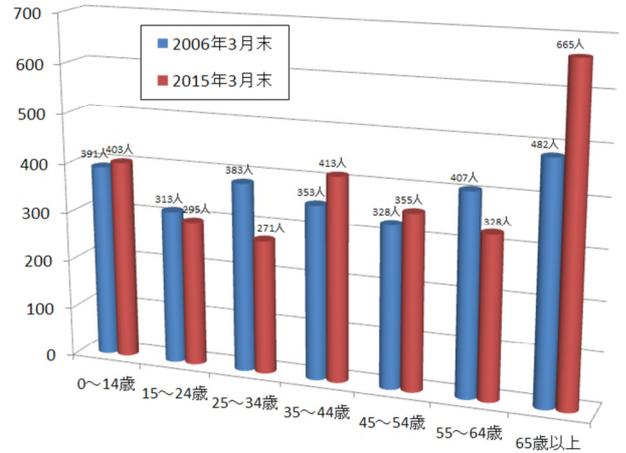
校区内には、国道1号と並行して名鉄名古屋本線が横断している。

【その他】 町内会は、橋目町内会、柿碓町内会、宇頭茶屋町内会、尾崎町内会

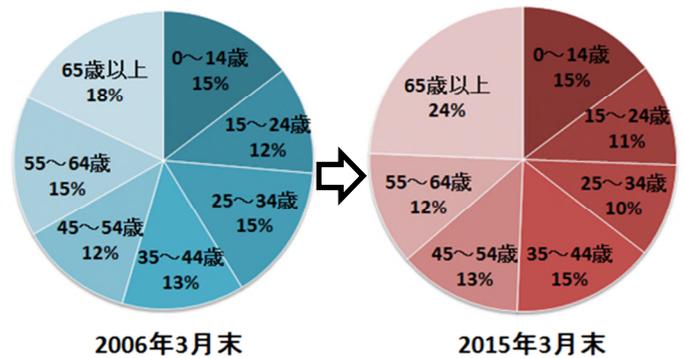
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	391人	15%
15～24歳	313人	12%
25～34歳	383人	15%
35～44歳	353人	13%
45～54歳	328人	12%
55～64歳	407人	15%
65歳以上	482人	18%
人口(合計)	2,657人	100%
人口密度	946人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	814世帯 (対全市 1.3%)	

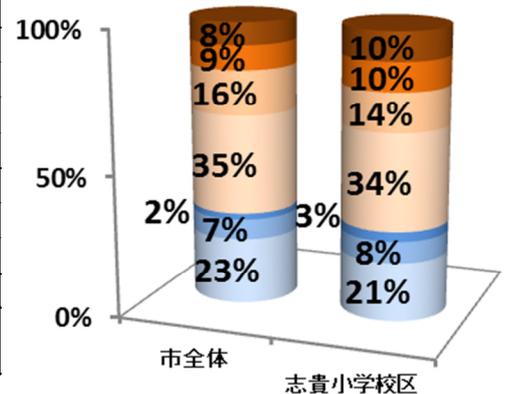


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	403人	15%
15～24歳	295人	11%
25～34歳	271人	10%
35～44歳	413人	15%
45～54歳	355人	13%
55～64歳	328人	12%
65歳以上	665人	24%
人口(合計)	2,730人	100%
人口密度	972人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	939世帯 (対全市 1.4%)	



【建物棟数】(2011年12月)

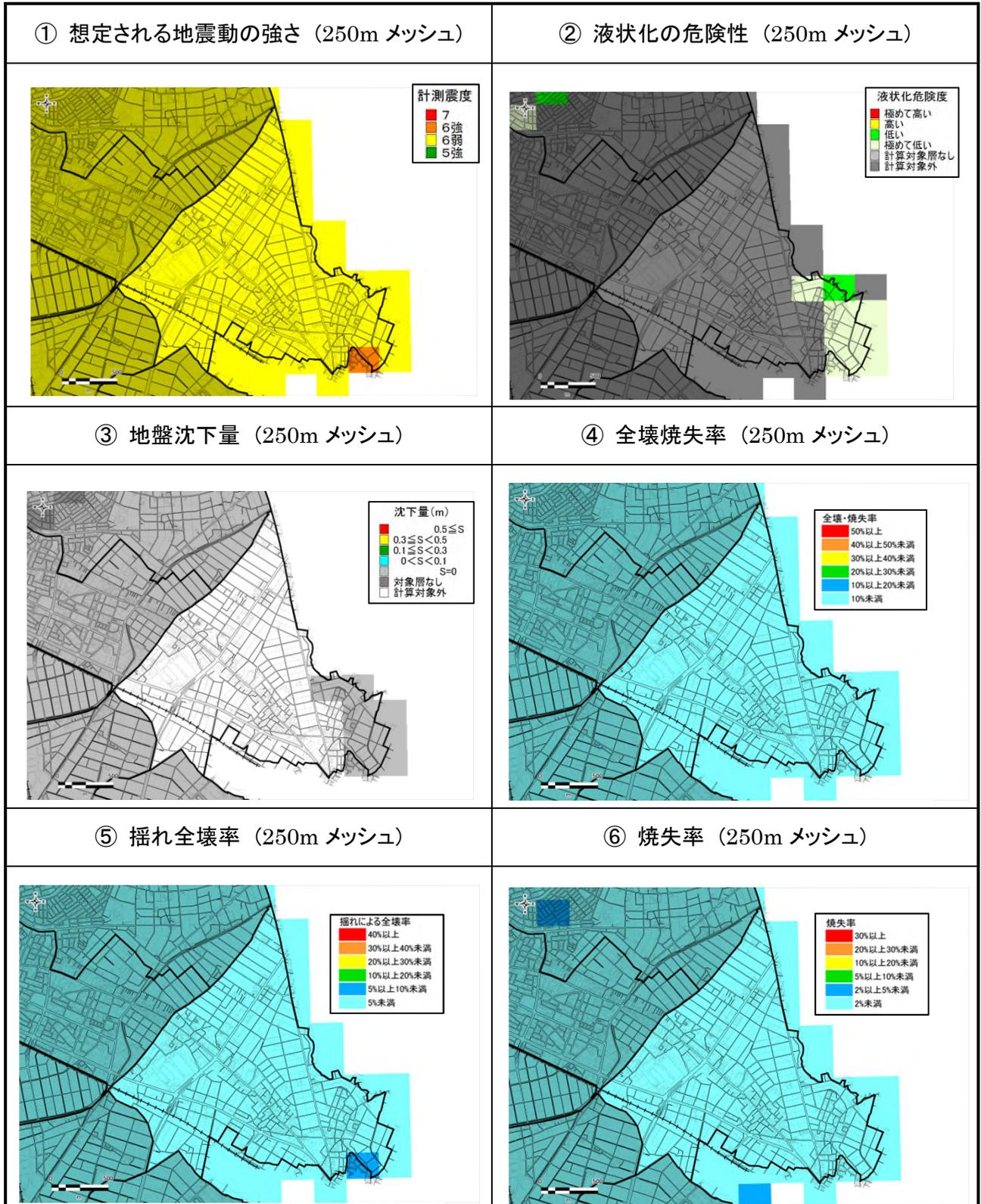
		建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	141棟	10%
	昭和37～46年	142棟	10%
	昭和47～56年	191棟	14%
	昭和57年以後	473棟	34%
非木造	昭和46年以前	47棟	3%
	昭和47～56年	106棟	8%
	昭和57年以後	282棟	21%
建物棟数(合計)		1,382棟	100%
1km ² 当たりの建物棟数(校区/全市)		校区: 492 / 全市: 699(棟/km ²)	



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。



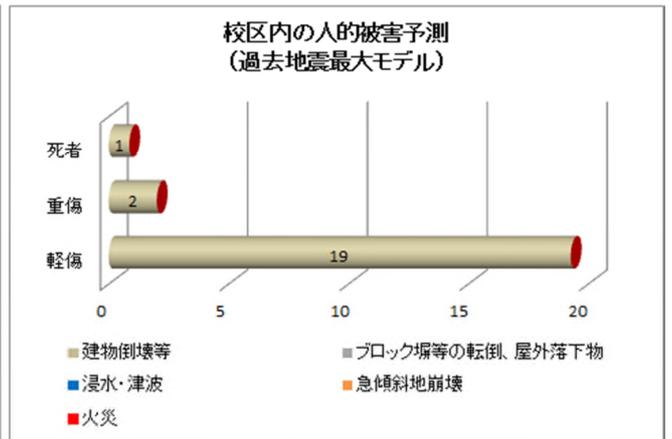
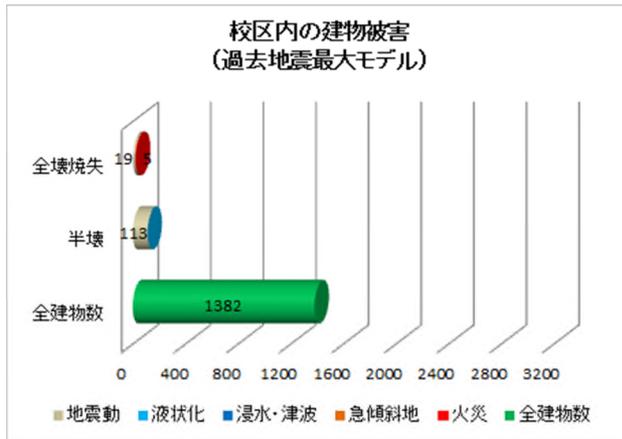
4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

志貴小学校区は、震度 6 弱から一部で震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、震度 6 強になるとはわないと動くことができない揺れである。建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、市境付近の低平地で液状化の危険性があるとされている。

<建物・人的被害の予測>

建物被害【冬・夕方発災】 ※()内は、校区の建物棟数1,382棟に対する割合			人的被害【冬・深夜発災】 ※()内は、校区の深夜人口2,586人に対する割合			
単位:(棟)			単位:(人)			
	全壊・焼失	半壊		死者数	重傷者数	軽傷者数
地震動	19	113	建物倒壊等 (うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	1	2	19
液状化	*	*	ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	(3)
浸水・津波	0	0	浸水・津波	0	0	0
急傾斜地	0	0	急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	5	—	火災	*	*	*
建物被害総数	24(1.8%)	113(8.2%)	被害者数合計	1(0.03%)	2(0.08%)	19(0.75%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
志貴小学校区	87	52	35	361	180	180	87	26	61
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

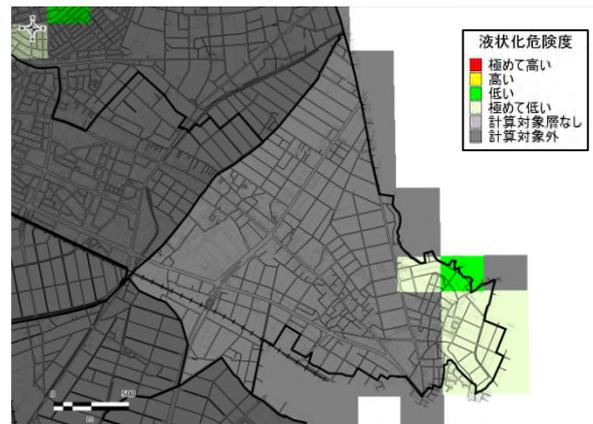
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

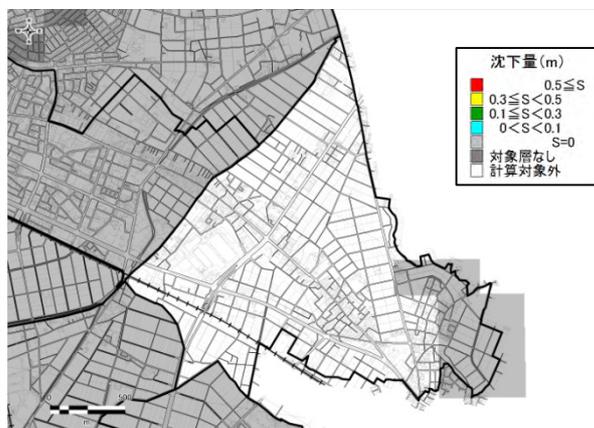
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



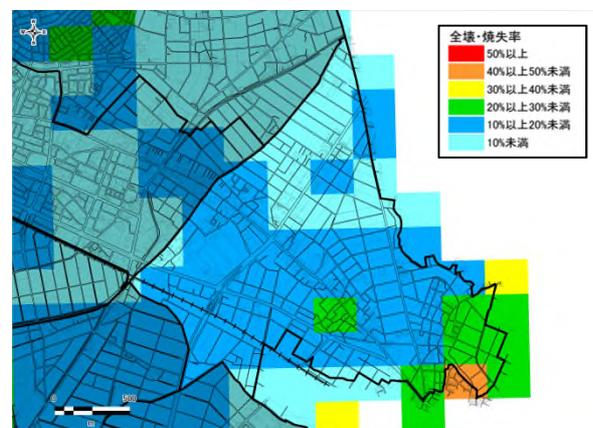
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



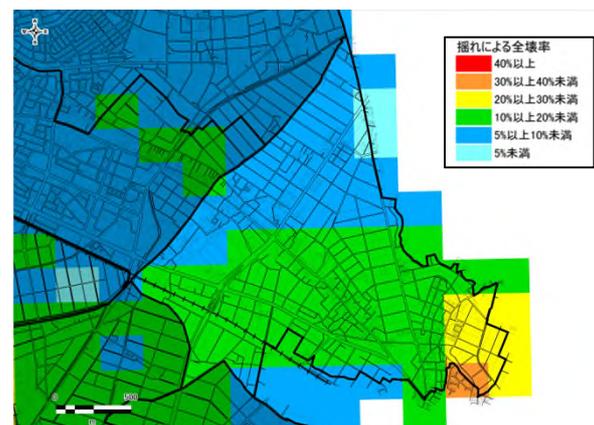
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



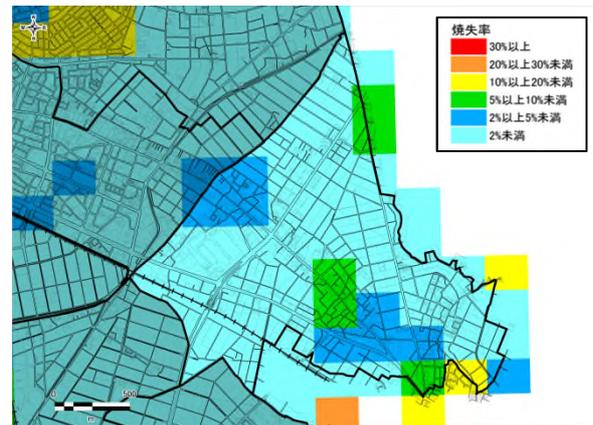
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

志貴小学校区は、震度 6 強から一部震度 7 の揺れが想定されている。はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、市境付近の低平地で液状化の危険性があるとされている。

<建物・人的被害の予測>

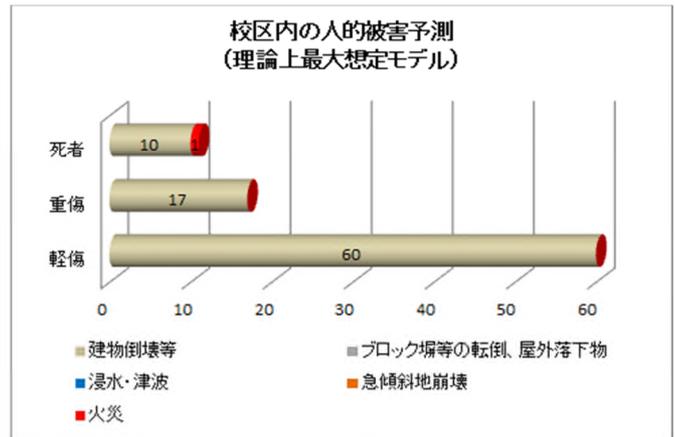
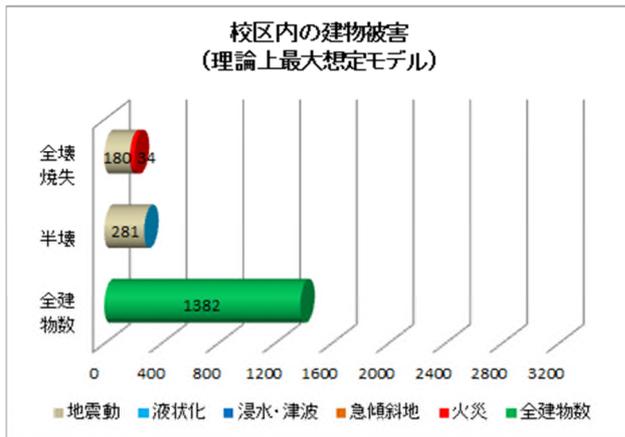
単位:(棟)

単位:(人)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数1,382棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	180	281
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	34	—
建物被害総数	215(15.5%)	281(20.3%)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口2,586人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	10	17	60
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(1)	(3)	(16)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	1	*	*
被害者数合計	11(0.41%)	17(0.66%)	60(2.31%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	—
緊急時ヘリポート可能箇所	—
消防署	—
消防団	志貴分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所*	—
自主防災組織数	4
防災倉庫・防災資材庫	志貴小学校
応急給水施設	志貴小学校
井戸	4
マンホールトイレ	—
学校	志貴小学校
保育園	志貴保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	—

※大規模災害時にのみ開設される救護所

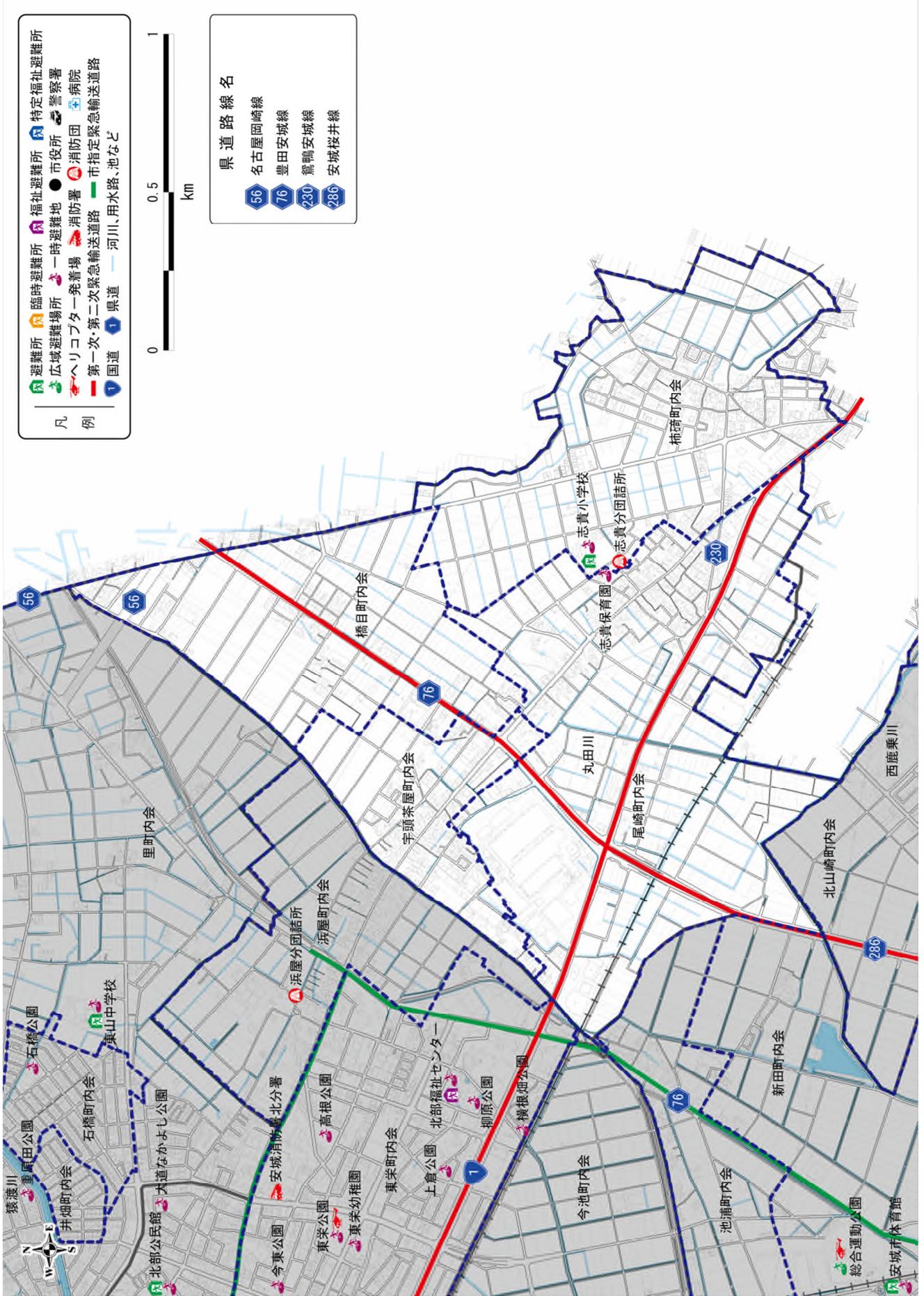
7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所		志貴小学校	97-8202	柿碓町御用地 45
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[m ²]
	一時	志貴小学校		柿碓町御用地 45	4,000
		志貴保育園		尾崎町北裏 49	2,000

8. 防災上の課題

- ・被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 10%、理論上最大想定モデルで約 36%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 3 人、理論上最大想定モデルで 27 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進めることが必要である。
- ・火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 34 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

**平成28年8月配布
安城市危機管理課**